

国語 - 2 1 (第6学年) 本を読んで推薦の文章を書く事例

【学習活動の概要】

1 単元名 本の魅力を推薦しよう		
2 単元の目標 本を推薦するために、同じ作家の本を比べたり作家について調べたりしながら、優れた叙述や表現の工夫、特徴に着目して読むことができる。		
3 評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・自分が推薦しようと考えた理由を明らかにしながら対象となる本を読み返したり、本を推薦する相手を明確にして、本の魅力を伝えたりしようとしている。 【読む能力】 ・本を推薦するために、場面や情景の描写など、優れた叙述に着目して、その美しさを味わいながら読んでいる。 ・推薦したい本の内容や書き手に関連する本を重ねて読むなど、目的に応じて複数の本や文章を選んで比べて読んでいる。 【言語についての知識・理解・技能】 ・言葉の美しさや正しさをとらえたり、その言葉が適切であるかどうかを感じ取ったりしながら読んでいる。		
4 教材 紀行文の教科書教材 写真をふんだんに用いた紀行文		
5 主な学習活動(単元の指導計画(全8時間))		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	学習の見通しをもつ。 これまでの読書体験を基に、本の選び方について振り返る。 本や文章のよさや特徴などを明らかにして、「5年生が読みたくなるように推薦しよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 本の推薦文と読書感想文を読み比べ、推薦文の構成要素や文章の特徴を調べる。	自らの読書傾向を振り返り、目的に応じた読書の在り方に目を向けさせる。 5年生の読書傾向などについて調べ、相手を具体的に意識できるようにする。 二つの文種を比較し、これからどんな読み方が必要なのかを具体的につかめるようにする。
第二次	自分の心に響く叙述を見付けながら、本を推薦するという目的をもって読み、推薦文を書く。 教材文(写真をふんだんに用いた紀行文)を読み、写真とその場面の描写、心情の描写などとの関係に着目しながら、「読み手である自分の心に強く響いてきた叙述」を見付ける。 筆者の経歴を述べた文章や筆者の他の作品を選んで読んで読んだ上で教材文を再読し、教材文の心に響く叙述との関連を考え、推薦文にまとめる。 互いの心に響く叙述について、理由を明らかにしながら推薦文を紹介し合い、グループで交流する。	筆者が何を述べようとしているかをつかむにとどまらず、これまで学習してきたことを生かして主体的な思考や判断を促しながら読めるようにしていく。 推薦理由をより確かなものにするために、関連する他の文章を探し、関係付けて読めるようにする。 友達の読みと交流することで、一層多面的に本の魅力を明らかにできるようにする。
第三次	本の推薦の文章を、5年生に読んでもらう。 自分の心に響いてきた叙述の魅力が伝わるように書くことができたかを振り返りながら、推薦文を紹介するための準備を行う。 推薦文を5年生に紹介し、感想をもらう。 これまでの学習を振り返る。	心に響いてきたことを伝えるのにふさわしい推薦の言葉を用いているかどうかを確認する。 実際に推薦文を読んだ感想をもらい、学習の成果を確認できるようにする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第5学年及び第6学年「C読むこと」の指導事項「エ 登場人物の相互関係や心情，場面についての描写をとらえ，優れた叙述について自分の考えをまとめること。」と指導事項「カ 目的に応じて，複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」とを取り上げて指導するものである。

「C読むこと」の言語活動例「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。」を通して指導することにより，指導の効果を高めている。

「本の推薦の文章」を書くためには，優れた叙述に着目したり，関連する本や文章と関係付けたりして推薦者が対象となる本の特徴をよく理解し，その魅力を他の読み手にも伝わるように説明することが求められる。

【言語活動の充実の工夫】

対象となる文章の魅力を明らかにして推薦する工夫

推薦するためには，自分が本当によいと実感したり，推薦する相手にとっても価値のあるものだと考えて対象をとらえたりした上で，自分の考えをまとめることが大切である。本事例では，単元を通して「自分の心に響く叙述」を見付けて読むことを意識できるようにしている。

場面や心情の描写など，優れた叙述に着目して読むための工夫

「自分の心に響く叙述」を見付けるために，文章の特徴に応じた着眼点をもてるようにする必要がある。

「C読むこと」の指導事項には，例えば下表のように，発達の段階に応じた着眼点を示している。低学年では読んだ本の好きなところを見付けたり，中学年では紹介したい本のお気に入りのところを見付けたりする言語活動を通して，繰り返しこのような着眼点を用いる。高学年ではさらに，これらを活用して対象となる本や文章の特徴に合った本の魅力を見いだしながら言語活動を進めていく。

学 年	指 導 事 項
第1・2学年	ア 言葉の響き ウ 場面の様子 ウ 登場人物の行動 オ 自分の経験とを結び付け
第3・4学年	ウ 場面の移り変わり ウ 登場人物の性格 ウ 気持ちの変化 ウ 情景
第5・6学年	エ 登場人物の相互関係 エ 心情 エ 場面についての描写

本事例においては，対象となる文章が，写真をふんだんに用いた紀行文であることを踏まえて，写真とその場面の描写，心情の描写などとの関係に着目できるようにしている。

「本の推薦」という言語活動の特徴を押さえるための工夫

指導目標を確実に指導するためには，取り上げる言語活動の特徴を，児童が明確に理解できるようにすることが重要である。本事例においては，単元の導入時に次のような工夫をして，「本の推薦」への具体的な見通しをもてるようにしている。

- ・自らの読書経験を振り返り，本の選び方を考える。
- ・5年生の読書傾向の分析を基にしながら，「5年生が読みたくなるような本の推薦文を書く」という明確な相手意識・目的意識をもたせる。
- ・異なる種類の文章を読み比べ，本を推薦する文章のもつ特徴を具体的に把握させる。

また第三次では，書いた推薦文を5年生に読んでもらう。5年生の反応を直接受け取ることによって，自分が感じた本の魅力を推薦することのよさを実感することができるようにする。それは，次の単元の学習にも結び付くものとなる。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ， ，